

## 今月の PICK UP



『山旅犬のナツ』 服部 文祥／著 河出書房新社 645.6 Ⅱ

北海道生まれ横浜育ち、雑種犬のメス、性格は臆病で、好物は大福・パン・チャイ。これが本書の主役「ナツ」のプロフィールです。登山家の著者に山旅犬として育てられ、これまで著者と共に歩いて3000キロ以上旅をし、冬は狩猟もするナツの子犬時代から現在までの成長、日常が写真とともに綴られています。ナツの表情や目力、美しい風景に惹き込まれます。

雪山登山、険しい山道や岩場を歩きながらの狩猟など、臆病とは思えない勇敢なナツは著者にとって心強いパートナーであり、互いへの信頼、愛情が伝わってきます。

『県境マニアと行くくるとふしぎ県境ツアー』 田仕 雅淑／著 技術評論社 291 ㊦



本書は県境マニアを自負する著者による、全国各地の県境のあれこれを紹介した1冊です。ショッピングモールひとつとっても、県境をまたいでいる場合は電気や水道はどちらから引いているのか？ ごみはどちらに出すのか？ 電話番号の市外局番は？ 住所は？ など、数々の疑問の答えに「なるほど!」「へえ～」と驚きや楽しさがたくさん詰まっています。

司書の  
おすすめ

『ミセス・ハリス、パリへ行く』 ポール・ギャリコ／著 亀山 龍樹／訳 KADOKAWA 933.7 ㊦

ミセス・ハリスはロンドンで働く家政婦さん。ある日、顧客である女優の家で見たディオールのドレスの美しさに衝撃を受けてしまいます。そして、なんとしてもパリのディオールの店でドレスを買おうと決心してコツコツお金を貯めるのでした。

パリに来て、場違いなところにやってきたと感じるミセス・ハリスでしたが、彼女の「ドレスを買いたい」というまっすぐな気持ちにお店の誰もが心を動かされ、皆でいくつもの難題を解決していきます。最後まで前向きな彼女の姿は、長年愛されるこの作品の魅力のひとつでしょう。



『生活はクラシック音楽でできている』 渋谷 ゆう子／著 笠間書院 762.3 ㊦



私たちの日常生活は、テレビ番組やコマーシャル、運動会や結婚式、そして家電などから流れる音楽で溢れています。そしてこのような馴染みのあるメロディは、誰もがロケルことができるほど私たちの生活に浸透しています。それらの中にはクラシック音楽が用いられているものも多数あり、作曲家や題名はわからないけれど、私たちは知らず知らずのうちに、クラシック音楽を聴きながら日々過ごしているのです。この本ではそんな日常生活に溶け込んでいるクラシックの名曲、120曲以上を、曲の誕生秘話を交え紹介しています。またQRコードから対象楽曲を鑑賞いただけます。

『世界で読み継がれる 子どもの本100』 コリン・ソルター／著 金原 瑞人・安納 令奈／訳  
原書房 019.5 ㊦

本書は、1697年出版『がちょうおばさんの話』から 2011年出版『怪物はささやく』までの児童書を初版本の表紙や挿絵と共に年代順に紹介しています。著者はイギリスの歴史作家で、作品が生まれた歴史的な背景や物語のストーリー、後の児童書への影響などが書かれています。例えば『ピーターパン』の著作権は小児病院に遺贈され、今も病院運営に役立っている話や、『グレッグのダメ日記』はもともインターネットで公開された日記の連載だった話などが紹介されています。

